

パラリンピック開催に 思(い)っ(と)

倉敷市・倉敷南高1年 仲光 麻結

この人は本当に車椅子に乗っているのだろうか。ボールを取り向かってくる相手をすばやくかわし、目にも止まらぬ速さでリングに近づきシュートを打つ。相手とぶつかって倒れても誰にも力を借りることなくスクッとすばやく起き上がり、またボールを追いかける。

「パラリンピック」。私を含

む多くの日本国民が眠い目を擦りながら夢中になって観戦した、あのロンドンオリンピックが終わり、今はパラリンピックが始まっている。でもどうして私はこの記事を見るまで気が付かなかったのだろうか。

まずは今、目になっている新聞。明らかにロンドンオリンピックの時よりもページ数が少ない。見出しもあまり派手ではないし、テレビ欄にも「ロンドンオリンピック生中継」の文字はよく目にしたのに、「パラリンピック生中継」の文字は見当たらない。朝も夕方も夜もテレビを付ける時もオリンピックのことばかりで日本中がロンドンオリンピック一色となっていた。しかし今は違う。テレビを付けても普段通り、政治や経済などのニュースばかりだ。だから私は気が付くことができなかったのだ。

でもなぜだろう。なんとなく自分の心の奥底では、実はその「答え」が分かっている気がした。恐らく私以外の多くの人も私と同じように感じているのではないか。しかしその気持ちは、誰もが心の内にしまっていて決して表に出せないでいる。そんなことを思っている自分が嫌にな

る。私を含む多くの日本国民が眠い目を擦りながら夢中になって観戦した、あのロンドンオリンピックが終わり、今はパラリンピックが始まっている。でもどうして私はこの記事を見るまで気が付かなかったのだろうか。

でもなぜだろう。なんとなく自分の心の奥底では、実はその「答え」が分かっている気がした。恐らく私以外の多くの人も私と同じように感じているのではないか。しかしその気持ちは、誰もが心の内にしまっていて決して表に出せないでいる。そんなことを思っている自分が嫌にな



る思いをめぐらせた。自分の心の内面にまで踏み込み、障害の有無にかかわらず対等に接することの大切さを訴えた。

寸評
パラリンピック・ロンドン大会での選
手の活躍や報道を通じて、障害者に対する思いをめぐらせた。自分の心の内面にまで踏み込み、障害の有無にかかわらず対等に接することの大切さを訴えた。